

湾生回家・昭和町への里帰り

編集部 田村 圭介

台湾で生まれ育ち、戦後引き揚げた日本人を「湾生（わんせい）」と呼びます。

6月1日 大安森林公園で関係者合わせ40数名が日本からご参加くださり、200名ほどの台北市民が見守る中、交流イベントが行われました。

バケツをひっくり返したような土砂降りの中、地元の区長さんや区民の方々の交流、日本代表で椰子の実コーラスさん、地元から阿美族の方々や龍安國小、大道芸人さんのご出演があり、日本人会、台湾協会、「湾生」映画スタッフのご参加などで、和やかなひと時となりました。

以下湾生の方のご挨拶と主催の台湾故郷文史協会 黄智慧理事長の手記と当日の模様をご紹介します。いただきます。

(1) 坂本英子さま

2019・6・1 午前中 大安区役所にて ご挨拶文

湾生を代表いたしましたして、ひとこと御挨拶申し上げます。

この度は大安区長林明寛様の御理解と御協力をいただき、黄智慧先生はじめ台湾の皆様のお熱意と御尽力により、このような大々的な会に伺うことができましたことを大変ありがたく心より御礼申し上げます。さらに、戸政事務所に長く眠っていた戸籍資料を元に、今回この地で育った証となる戸籍謄本をいただくことができますことも、ありがたく嬉しいことでございます。戸政事務所主任のサイ様に厚く御礼申し上げます。この会を通してこうした活動が広く皆様の知るところとなり、昭和町という場所を

中心に、時代を越え、国を越え、世代を越えて、人と人が繋がる輪がさらに広がることを心から願っております。ありがとうございました。

(2) 新元久さま

2019・6・1 午後 大安森林公園の「里帰り歓迎会」代表ご挨拶文

私は1931年に台南州曾文群麻豆、で生まれた湾生です。1945年以後に生まれた湾生はいないので、今や湾生は絶滅危惧される貴重な人種です。

私の名前は新元久（にいもと ひさし）です。先月、日本の新聞では私の名前が大きな活字で掲載されていました。それは（新元号）になったからです。

最初に（あり、なし、クイズ）です。台湾の皆様にあるけれど、湾生にはないものは何でしょうか？

それは「故郷」です。

私にとって「兎追いしかの山」は北投や草山であり、「小鮒釣りしかの川」は堀川であります。

台湾の方々が日本時代の建築物を大切に
して修復保存して下さることに對して、湾
生は涙が出るほど有難く感謝しています。

昔、私が住んでいた幸町の廃屋が今年修
復されて、昨日見えてきました。2年前に台
北に来た時には、屋根がぐずれた廃屋でし
たので、「故郷の廃家」を歌いました。

又、北門にある、元総督府鉄道部の庁舎
がきれいに修復されて鉄道公園になつてい
るのに感激しました。福隆近くにある草嶺
トンネルには私の祖父の揮毫した「制天
險」の扁額が保存されています。祖父は
75年前に他界しましたが、私は台湾に来
て、あのトンネルに行くと祖父に会う事が
できます。

私達、湾生にとって、故郷は台湾なので
本日、台湾の方々が湾生の故郷回家を暖
かく迎えて下さった事がとても嬉しく、深
く感謝いたします。どうも有難うございま
した。

(3) 台湾故郷文史協会

黄智慧 理事長

2019・6・1午前 大安区役所
ご挨拶とご寄稿

昨年は「昭和町の会」としまして、第一
回目の「昭和町の日」イベントを開催し、
かつての昭和町住民の皆様の里帰りを、実
現しました。2回目である今年は、昨年の
ボランティア組織から発展し、社団法人
「台湾故郷文史協会」としての開催となり
ました。昨年よりも、イベントの規模が拡
大し、行政機関と戸政事務所の多大な協力
を得て、一か月の歴史資料を展示し、そし



▲大安区役所史料展示

て、本日の午後、大安森林公園にて、台北
の市民とともに、皆様の帰郷を歓迎する形
となりました。

近年、台湾各地に残る木造の日本家屋を
リノベーションし、市民の憩いの場として
活用する事例が、多く注目されておりませ
が、その一方で、それら家屋を利用する市
民は、その家屋にかつてどのような人が住
み、どのような歴史があったか、というこ
とを知りません。関心を持ったとしても、
長らく住民のいないその家の歴史を、知る
術さえありません。



▲旧昭和町日本家屋一例

この里帰りイベントが意味するもの

一つは、かつてこの地に住んだ湾生の皆様の台湾への思いを、台湾の皆様にも知っていたいただくこと。私たちは台湾を故郷と思う方たちと長年お付き合いしてまいりました。皆さんの強い望郷の思い、それは現在この土地に住む私たちが知るべきことだと、実感するものです。

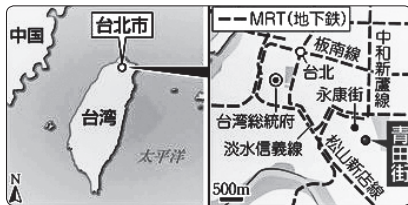
この台北市の土地の大切な歴史を、湾生の皆様に生き証人として教えて頂くことは、私たち台湾人にとって大変貴重な機会であります。そして皆様の最愛なる大切な家屋を、現在台湾で使わせて頂けていること、深く感謝致します。

日本への引き揚げの際、皆様が持ち帰ることが出来たものは、ほんの僅かでした。皆様が台湾に残したものの、それは大事な家屋だけではなく、たくさんの記憶と心残りです。その「心残り」を何らかの形でお返ししたい、今回のイベントでは、皆様がこの地で暮らした家族の足跡である、戸籍謄本をお返しすることで、皆様のファミリー

ヒストリーの空白を埋めるお手伝いが出来たらと考えました。そして、台湾で懸命に仕事に励んだ、ご家族の証「歴史檔案」をまとめたものをお贈りしたいと思います。

昭和町に残る50数軒の家屋は、深い歴史が詰まっています。私たちは、和解と平和の発信地として、日本と台湾の文化遺産として双方で守っていかれたらと願っています。

2003年に台北の旧昭和町（現在の青田街、温州街一带）で始まった現在の住民による保存運動と連動して、かつての住民が東京にて同郷会「台北昭和町会」を結成し、戦後の住民との交流が始まりました。2017年、同会は会員の高齢化のため定例会を終了したのですが、現在の住民や保存運動者、昭和町の日本家屋を活用する経営者た



ちがそれまでの交流を途絶えさせぬようボランティア組織「台北昭和町の会」を結成、2018年に「台北『昭和町』の日」を行いました。今年2月には、活動の幅を広げるため組織を発展させ、台湾政府認証の社団法人「台湾故郷文史協会」を設立。私たちは、台北昭和町をベースにしながらも、台湾を故郷と思い心を寄せる皆様に寄り添える組織でありたいと考えています。

昨年に引き続き、6月1日〜3日に「台北『昭和町』の日」を開催。本年は、旧昭和町の所在する地元の行政機関である台北市大安区役所と戸籍事務所の協力を得て、昨年よりも規模を拡大し、より市民に近い形での催しとなりました。

1日目に大安森林公園で行われた「故郷大安」里帰り歓迎会では、旧昭和町で暮らした方をはじめとした湾生の方12名及びご家族、関係者合わせ40数名が日本からご参加くださり、200名ほどの台北市民が見守る中、台北市大安区の林明寛区長と



2019/6/1 故郷大安里帰り歓迎会



2019/6/1 戸籍謄本を受領



2019/6/3 旧錦小学校創立90周年 卒業生が旧校舎に再訪



2019/6/3 旧錦小訪問（龍安）

戸政事務所蔡文如主任より、湾生の皆さんがかつて暮らした証である台湾での戸籍謄本が贈呈されました。そして、日台双方のコーラス団体による、アミ族の「台湾好」、「豊年祭」、台湾民謡「雨夜花」、「思慕的人」、日本歌謡「君といつまでも」、「ここに幸あり」などの心温まる合唱が披露されました。会の最後には、参加者全員により「故郷」の大合唱がされ、湾生が奏でる草笛も響き、多くの来場者に感動を与えました。また当協会からも、里帰りした方々のご家族が台

湾で歩んだ足跡である多くの歴史史料、辞令や新聞記事、雑誌の記事などを贈呈。



▲ 椰子の実コーラス

翌日は昭和町の旧住民が保存・修復された家に里帰りし、経営者が温かく迎えてくださり、引揚のご苦労や戦後の住民の歴史を語り合いました。

3日目は、大安区にある龍安小学校（旧錦尋常小学校、昭和国民学校）の創立九十年に合わせた母校訪問では、当時の卒業証書になぞらえた修了証書が贈られました。校歌を歌い、昔のまま残る赤レンガの校舎や教室、手すりを滑り台にして遊んだとい

